

# 丹切遺跡第6・9次発掘調査概要報告書

榛原町文化財調査概要 23

2001

榛原町教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、奈良県宇陀郡榛原町内に所在する「丹切遺跡」の第6・9次発掘調査概要報告書（榛原町文化財調査概要23）である。
- 2 現地調査は、奈良県教育委員会の指導のもと榛原町教育委員会技師　柳澤一宏が担当し、第6次調査を1995年2月、第9次調査を2000年9月に実施した。
- 3 整理作業は2000年9月から2001年3月にかけて実施した。
- 4 調査組織および関係者は、各本文中に詳しい。
- 5 土層及び土器の色調は、「新版標準土色帳」1987年版・1997年後期版（農林水産技術会議事務局監修（財）日本色彩研究所色票監修）を参考にしている。
- 6 各遺跡の調査記録、遺物等は榛原町教育委員会において保管している。
- 7 本書の執筆・編集は柳澤が行った。

# 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| I 位置と環境 .....           | 1  |
| 1 地理的環境                 |    |
| 2 歴史的環境                 |    |
| II 丹切遺跡の調査 .....        | 3  |
| III 丹切遺跡第6次発掘調査概要 ..... | 6  |
| 1 調査の契機と経過              |    |
| 2 位置と環境                 |    |
| 3 遺跡の調査                 |    |
| 4 まとめ                   |    |
| 5 抄録                    |    |
| IV 丹切遺跡第9次発掘調査概要 .....  | 11 |
| 1 調査の契機と経過              |    |
| 2 位置と環境                 |    |
| 3 遺跡の調査                 |    |
| 4 まとめ                   |    |
| 5 抄録                    |    |

報告書抄録

# I 位 置 と 環 境

## 1 地 理 的 環 境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており、現在の行政区画では大字宇陀町、樅原町、菟田野町、室生村、曾爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300~400mの丘陵とこの間に縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも総称され、大字宇陀町、樅原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの険しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら樅原町萩原で宇陀川本流となる。樅原町を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

樅原町の四周は概ね標高約400~800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割峠がある。北は大和高原とを区切る額井岳、香醉山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大字宇陀町、南は菟田野町となっており、丘陵をもってそれぞれの境界としている。地形的にみれば樅原町の西半は口宇陀的、東半は奥宇陀的な様相を呈している。



図1 樅原町位置図

## 2 歴 史 的 環 境

宇陀地方は、「古事記」、「日本書紀」をはじめとする多くの文献にも度々登場し、軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。

これまでに、宇陀郡内では4点の有尖頭器が出土しており、うち、3点が町内から出土していることが明らかとなっている。これらは、旧石器時代末期から縄文時代草創期に求めることができ、この頃が宇陀の歴史の初源であろう。縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これらの遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになったものは少ない。このような状況のもと高井遺跡や坊ノ浦遺跡

等では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒジキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓は、これまでに野山遺跡群、能峰遺跡群、下井足遺跡群、大王山遺跡群、キトラ遺跡などで確認されている。この頃の集落としては、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、能峰中島遺跡、上井足北出遺跡、谷遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や堅穴式住居跡などが確認されている遺跡もある。

古墳時代前期の古墳は谷畑古墳、中期の古墳としては高山1号墳、シメン坂1号墳、前山1号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期となると古墳数は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、町内各所の尾根上には數基から十数基単位で分布している。5世紀後半から盛期を迎える古墳群は野山古墳群、沢古墳群、栗谷古墳群、大王山古墳群、丹切古墳群などが知られている。6世紀後半以降、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、丹切古墳群、能峰古墳群、石田古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場してくるが、最も代表的なものが、壬申の乱で活躍した将軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓である。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。

古代末には宇陀においても莊園の開発が急速に進み、このなかで台頭してきた在地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が發展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・沢氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、沢城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したこともある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峰遺跡群、八咫烏遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

丹切遺跡は、株原の市街地の南端部にあたり、丹切古墳群から宇陀川へと緩やかに北へ傾斜する谷水田地帯から旧宇陀川右岸の河岸段丘上に位置する。1949年～1950年にかけて宇陀川の河川改修が行われ、この際の新宇陀川が遺跡を南北に分断する格好となった。これによって新宇陀川北側から株原駅前にかけての地域の市街化が進行することとなる。一方、遺跡南半部から東半部の緩傾斜地には、小尾根や谷水田が残り、遺跡が比較的良好な状況で保たれているが、遺跡の様相等は不明な点も多い。

紙幅の都合上、多くを述べることができないが、「位置と環境」は、以前からも幾つかの報告書等で触れられており、次の文献に詳しい。

『宇陀・丹切古墳群』 奈良県教育委員会 1975

『大王山遺跡』 株原町教育委員会 1977

『能峰遺跡群』 I 奈良県教育委員会 1986

『下井足遺跡群』 奈良県教育委員会 1987

『野山古墳群』 I 奈良県教育委員会 1988

『高田垣内古墳群』 奈良県教育委員会 1991

『大和宇陀地域における古墳の研究』 宇陀古墳文化研究会 1993

## II 丹切遺跡の発掘調査

丹切遺跡は、棟原の市街地の南端部にあたり、丹切古墳群から宇陀川へと緩やかに北へ傾斜する谷水田地帯から旧宇陀川右岸の河岸段丘上に位置する（図2）。

1949年～1950年にかけての宇陀川の河川改修に伴い、新宇陀川（現在の宇陀川）が丹切遺跡を南北に分断する格好となり、新宇陀川北側から棟原駅前にかけての地域の市街化が進行することとなる。

その後、1973年には、丹切古墳群に隣接する約2.7haの山野において土地区画整理事業が実施されることとなった。この事業に伴う発掘調査は、丹切古墳群を構成する古墳については実施されたが、遺物散布地である丹切遺跡については、十分な発掘調査は行われなかつたようである。遺跡調査の機会を逸したのは残念である。

棟原町教育委員会では、1985年度以降、小規模ではあるものの発掘調査及び立会調査を継続しており、その発掘調査概要を表1・図3にまとめる。

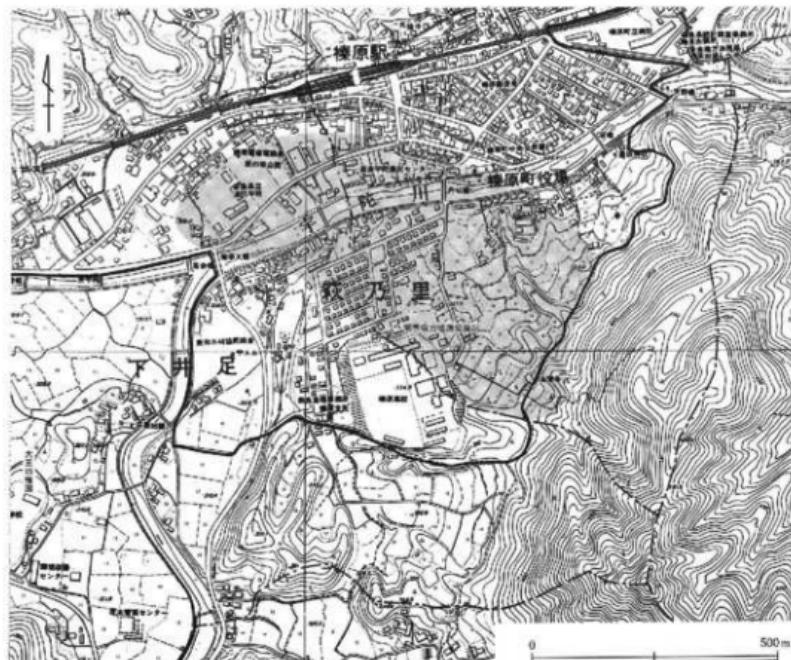


図2 丹切遺跡位置図

表1 丹切遺跡発掘調査次数一覧表

| 調査<br>次数 | 調査地                       | 調査原因      | 調査<br>面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 調査期間                     | 調査概要            |  |
|----------|---------------------------|-----------|-------------------------------|--------------------------|-----------------|--|
|          |                           |           |                               |                          | 遺構              | 遺物   |
| 1次       | 榛原町下井足<br>90-1            | 郵便局舎建設工事  | 260                           | 1985・6・27～<br>1985・7・29  | 素掘溝<br>(宇陀川氾濫原) | 瓦器、土師器、鐵貨(寛永通寶)  |
| 2次       | 榛原町萩原<br>元萩原177-1         | 宅地造成工事    | 34                            | 1987・7・17                | (自然谷地形)         | 弥生土器、須恵器、瓦器、土師器  |
| 3次       | 榛原町萩原<br>元萩原350他          | 宅地造成工事    | 450                           | 1992・4・20～<br>1992・6・12  | 自然流路<br>(自然谷地形) | サヌカイト片、瑪瑙片、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、墨書き土器、製塩土器、灰陶陶器、瓦器、瓦、フイゴ羽口、鐵貨(和同開珍龜)、鐵釘、木製品(木筒、下駄、曲物他)、自然遺物(種子、馬骨)他 |
| 4次       | 榛原町萩原<br>元萩原490           | 地区公民館建設工事 | 71                            | 1992・8・17～<br>1992・8・29  | 溝               | 須恵器、土師器  |
| 5次       | 榛原町下井足<br>46-1, 47        | 店舗建設工事    | 70                            | 1994・2・14～<br>1994・2・28  | (宇陀川氾濫原)        | 須恵器、黒色土器、土師器   |
| 6次       | 榛原町萩原<br>元萩原306           | 寺院建設工事    | 10                            | 1995・2・7                 | (自然谷地形)         | 須恵器、土師器、製塩土器   |
| 7次       | 榛原町萩原<br>元萩原212-1         | 共同住宅建設工事  | 105                           | 1996・10・21～<br>1996・12・6 | 溝<br>(自然流路)     | 绳文土器、弥生土器、サヌカイト片、砥石、須恵器、土師器、瓦器、瓦   |
| 8次       | 榛原町萩原<br>元萩原537-1, 537-2  | 個人住宅建設工事  | 6                             | 1999・3・11～<br>1999・3・31  | (自然谷地形)         | 土師器  |
| 9次       | 榛原町下井足<br>17-3            | 役場庁舎建設工事  | 140                           | 2000・9・1～<br>2000・9・30   | 素掘溝<br>(宇陀川氾濫原) | サヌカイト剝片、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鐵釘  |
| 10次      | 榛原町萩原<br>元萩原533, 534, 535 | 個人住宅建設工事  | 10                            | 2001・2・16～<br>2001・3・26  | (自然谷地形)         | 須恵器、土師器  |

## 下井足カワタ遺跡

|    |                    |                    |     |  |          |                   |
|----|--------------------|--------------------|-----|--|----------|-------------------|
| 1次 | 榛原町下井足<br>155, 156 | 道路新設工事<br>個人農地造成工事 | 111 | 1990・8・8～<br>1990・8・22<br>1991・9・4～<br>1991・9・30 | 溝、土坑、ピット | サヌカイト片、須恵器、土師器、鐵釘 |
| 2次 |                    |                    |     |  |          |                   |

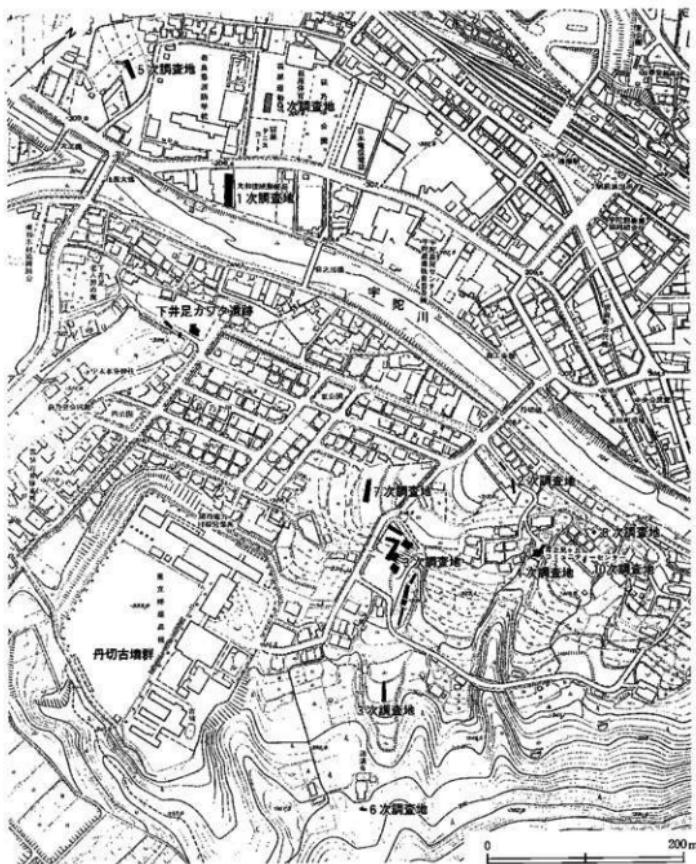


図3 丹切遺跡発掘調査位置図

## IV 丹切遺跡第6次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

遺跡北西部において、寺院の改築工事が計画され、1995年2月には事業主より「埋蔵文化財発掘届」が提出された。直ちに関係機関等が発掘調査の実施方法等を協議した結果、株原町教育委員会が発掘調査を担当することとなった。工事予定地内での遺構・遺物の状況が明らかでないため、まず、試掘調査（確認調査）を行うこととした。現地調査は1995年（平成6）2月7日に行った。

調査関係者等は次のとおりである。

#### 現地調査（1994年度）

調査主体 株原町教育委員会（教育長 山尾正弘）  
調査担当課 社会教育課（課長 異 幹雄）  
調査担当者 社会教育課 技師 柳澤一宏  
調査補助員 井上好美  
調査指導 奈良県教育委員会 文化財保存課  
調査協力 法清寺、松坂建設㈱

#### 整理作業（2000年度）

調査主体 株原町教育委員会（教育長 田村義治）  
調査担当課 生涯学習課（課長 中村好三）  
調査担当者 生涯学習課 技師 柳澤一宏  
調査補助員 井上好美、永野仁、横澤慈、岡田諭

### 2 位置と環境

丹切遺跡は、株原の市街地の南端部にあたり、丹切古墳群から宇陀川へと緩やかに北へ傾斜する谷水田地帯から旧宇陀川右岸の河岸段丘上に位置する。調査地は、遺跡の南東隅部分、北西に開く谷地形の上流部分（標高約360m）にあり、谷を囲む三方の尾根上には約20基の後期古墳が築造されている（図3）。

### 3 遺跡の調査

#### （1）調査区と基本層序

工事予定地（面積：約180m<sup>2</sup>）のうち、建物建設地南東部分にトレンチ（長さ約6m、幅約1.5m）を設定し、遺構・遺物の検出につとめた（図4）。

基本層序は、第1層が黄灰色粘質土、第2層が黒褐色粘土、第3層が暗緑灰色粘土、第4層がオリーブ黒色砂、第5層が黒色粘土、第6層が株原石を含む灰色砂砾の地山となっている。地表から地山面までの深さは、約2.4mである（図5）。

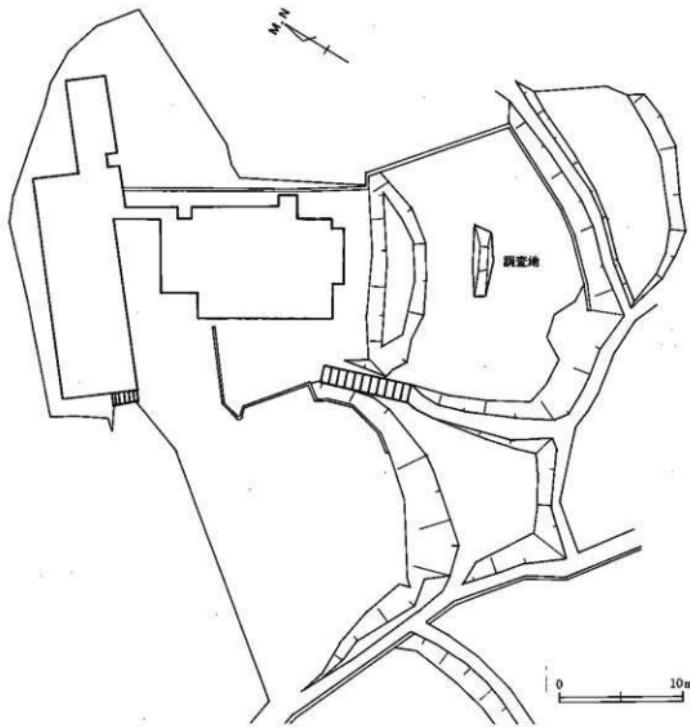


図4 丹切遺跡（6次）調査位置図

## (2) 検出遺構

調査地は、地形及び基本層序から自然谷地形内にあり、また、狹隘な調査面積のため明確な遺構は検出できなかった。

## (3) 出土遺物

第1～3層中より土師器（土釜等）、第4・5層中から須恵器、土師器、製塙土器が出土している。これらのうち、図化できたものは、須恵器7点、土師器2点、製塙土器1点である（図6）。詳細は表2にまとめているが、これらの概要は次のとおりである。

### 須恵器

杯蓋（1・2） 天井部と口縁部とを区切る稜は鈍く、稜の下には凹線をめぐらす。口縁端部は内傾する面をもつ。2の天井部内面中央には、同心円文が認められる。

杯身（3～5） 口縁部は内傾し、口縁端部を丸くおさめる。受部先端も同様に丸い。5の口縁部内面には凹線をめぐらせ、底部外面には「×」のヘラ記号が認められる。

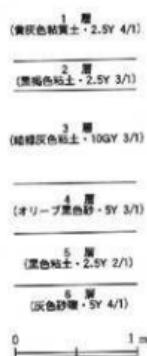


図5 丹切遺跡（6次）柱状土層断面図

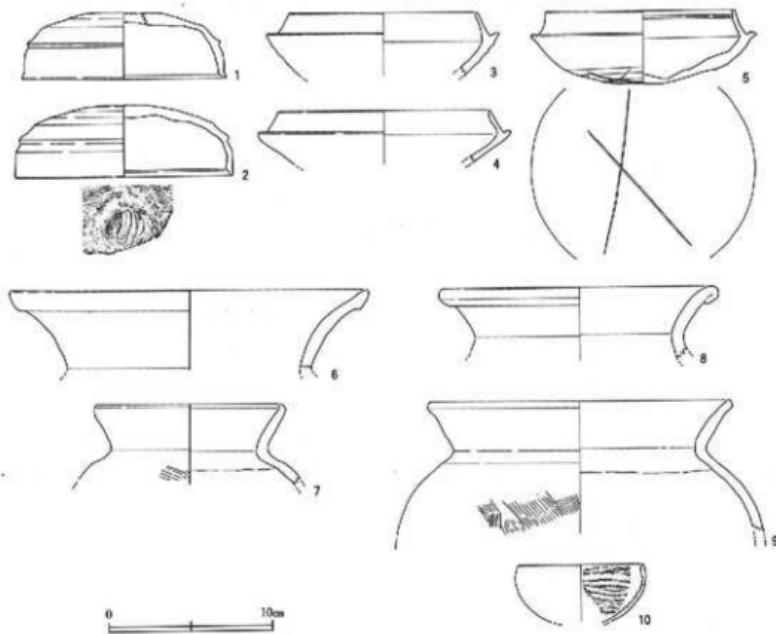


図6 丹切遺跡（6次）出土遺物実測図

甕（6・8） 口縁部は外反気味に外上方にのび、外面には、凹線・波状文などは認められない。  
6の口縁端部は三角形状を呈し、8の口縁端部は粘土を折返し、丸くおさめる。

#### 土師器

甕（7・9） 7の口縁部は外上方にのび、口縁端部をやや内側へつまみ上げる。9の口縁部はやや外反気味に外上方にのび、口縁端部は外傾する面をもつ。いずれも体部外面にはハケ調整を施す。

製塙土器（10） 復元口径は7.6cm、器壁は約2mmと薄い。内面には二枚貝を用いたヨコナデを施す。

## 4 まとめ

調査地は、自然谷地形内にあるものの、第4・5層より陶邑編年のMT-15-TK-10型式に比定できる須恵器等が出土した。これらは、6世紀前葉～中葉のもので、丹切古墳群の造営時期とも重なり、周辺には古墳建築に関連した遺構等が埋没している可能性も考えられる。

調査地下方の3次調査においては、奈良時代から平安時代の遺物が多く出土しており、3次調査地から6次調査地にかけての谷部分とその周辺は、詳細な発掘調査が必要な地区である。

## 5 抄録

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 遺跡名    | 丹切遺跡（株原町遺跡地図番号1-98、奈良県遺跡地図番号15-B-8） |
| 調査地    | 奈良県宇陀郡株原町大字萩原 元萩原306                |
| 遺跡立地   | 標高約307～360mの谷部・河岸段丘・低地              |
| 遺跡規模   | 南北約700～800m、東西約300～400m             |
| 種別     | 縄文時代～中世の遺物散布地・集落跡                   |
| 調査主体   | 株原町教育委員会                            |
| 調査原因   | 寺院建設工事（事業者：法清寺）                     |
| 現地調査期間 | 1995年（平成7）2月7日                      |
| 調査面積   | 10m <sup>2</sup>                    |
| 検出遺構   | 自然谷地形                               |
| 検出遺物   | 須恵器、土師器、製塙土器（整理箱 1箱）                |
| 資料等の保管 | 株原町教育委員会（文化財整理室）                    |

#### 参考文献

田辺昭三「須恵器大成」 角川書店 1981

表2 丹切遺跡（6次）出土土器観察表

| 掲図番号 | 器種        | 法量(cm)                     | 形態の特徴   | 技法の特徴                                       | 胎土 | 焼成 | 色調              | 備考    |
|------|-----------|----------------------------|---|---|----|----|-----------------|-------|
| 6-1  | 須恵器<br>杯蓋 | 復元口径<br>器 高<br>12.4<br>4.1 | 口縁部と天井部とをわける棱は鋭く、口縁端部は内傾する面をもつ。                     | 天井部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。ロクロ回転は右方向              | 精良 | 堅緻 | 青灰色             | 第4層出土 |
| 6-2  | 須恵器<br>杯蓋 | 復元口径<br>器 高<br>13.2<br>4.4 |   | 天井部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。内面中央に同心円文。ロクロ回転は右方向    | 精良 | 堅緻 | 青灰色<br>暗青灰色     |       |
| 6-3  | 須恵器<br>杯身 | 復元口径<br>現存高<br>11.4<br>3.9 | 口縁部は内傾し、口縁端部は丸い。                                    | 内外面とも回転ナデ。                                  | 精良 | 堅緻 | 灰色              |       |
| 6-4  | 須恵器<br>杯身 | 復元口径<br>現存高<br>13.0<br>3.3 |   |   | 精良 | 堅緻 | 灰色              |       |
| 6-5  | 須恵器<br>杯身 | 口 径<br>器 高<br>11.2<br>4.5  | 口縁部は内傾し、口縁端部は丸い。口縁部内面には1条の凹線。底部外<br>面に「X」のヘラ記号      | 底部外面は回転ヘラケズリ。内面中央は仕上げナデ。その他は回転ナデ。ロクロ回転は右方向。 | 精良 | 堅緻 | 灰色              |       |
| 6-6  | 須恵器<br>臺  | 復元口径<br>現存高<br>21.8<br>9.9 | 口縁部は外反気味<br>に外上方にのびる。<br>口縁端部は三角形<br>状を呈する。         | 内外面とも回転ナ<br>デ。                              | 精良 | 堅緻 | 灰白色             |       |
| 6-7  | 土師器<br>臺  | 復元口径<br>現存高<br>11.2<br>4.9 | 口縁部は外上方に<br>のび、口縁端部を<br>やや内側へつまみ<br>上げる。            | 胴部外面はハケ、<br>その他はヨコナデ。                       | 密  | 良好 | 灰褐色             |       |
| 6-8  | 須恵器<br>臺  | 復元口径<br>現存高<br>16.2<br>4.5 | 口縁部は外反気味<br>に外上方にのび、<br>口縁端部は粘土を<br>折返し、丸くおさ<br>める。 | 内外面とも回転ナ<br>デ。                              | 精良 | 堅緻 | 灰色              | 第5層出土 |
| 6-9  | 土師器<br>臺  | 復元口径<br>現存高<br>18.4<br>8.1 | 口縁部はやや外<br>気味に外上方にの<br>び、口縁端部は外<br>傾する面をもつ。         | 胴部外面はハケ、<br>その他はヨコナデ                        | 密  | 良好 | にぶい橙色<br>にぶい黄褐色 |       |
| 6-10 | 製塩土器      | 復元口径<br>現存高<br>7.6<br>3.5  | 体部は内厚し、口<br>縁端部は丸い。                                 | 内面は二枚貝を用<br>いたヨコナデ。外<br>面はナデ、指頭圧<br>痕。      | 密  | 良好 | 橙色<br>にぶい赤褐色    |       |

## IV 丹切遺跡第9次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

遺跡北西部において、榛原町役場庁舎の新築工事が計画され、2000年4月には庁舎建設推進室より「埋蔵文化財発掘通知」が提出された。その後、関係機関等が発掘調査の実施方法等を協議した結果、榛原町教育委員会が発掘調査を担当することとなった。工事予定地内での遺構・遺物の状況が明らかでないため、まず、試掘調査（確認調査）を行うこととした。現地調査は2000年（平成12）9月1日に着手し、同年9月30日に終了した。

調査関係者等は次のとおりである。

|          |  |
|----------|--|
| 調査主体     | 榛原町教育委員会（教育長 田村義治）                             |
| 調査担当課    | 生涯学習課（課長 中村好三）                                 |
| 調査担当者    | 生涯学習課 技師 柳澤一宏                                  |
| 調査補助員    | 井上好美、永野仁、横澤慈、上西高登、岡田諭、坂佳彦、井上雅善、楠田佳代、谷村美樹子、山岡政郁 |
| 調査作業員    | 池田圭子、粉川君江、大門静、中谷喜代子、古川マサエ、古城シズ子、戴内秀子           |
| 調査指導     | 奈良県教育委員会 文化財保存課                                |
| 調査協力（庶務） | 榛原町役場 開発部庁舎建設推進室（室長 高橋博和）                      |

### 2 位置と環境

丹切遺跡は、榛原の市街地の南端部にあたり、丹切古墳群から宇陀川へと緩やかに北へ傾斜する谷水田地帯から旧宇陀川右岸の河岸段丘上に位置する（図3）。

調査地は河川改修後に市街化が進んだ旧宇陀川右岸の低地ないし低い段丘上にあり、現在はグランドや公園等となっている。1924年（大正13年）～1969年（昭和44年）までは、宇陀高等女学校及び榛原高等学校の敷地（グランド）となっていたところでもある。

### 3 遺跡の調査

#### （1）調査区と基本層序

工事予定地（面積：約10,911m<sup>2</sup>）のうち、庁舎建設地（面積：約1,920m<sup>2</sup>）の中央付近にトレント（長さ約20m、幅約7m）を設定し、遺構・遺物の検出につとめた（図7）。

高校開設時の攪乱等が調査区の各所に認められるが、基本層序は、第1層がグランド整地土、第2層が暗灰黄色土・褐色土、第3層が黄褐色土・褐色粘質土、第4層がにぶい黄褐色粘質土、第5層が褐色砂となっている（図8）。

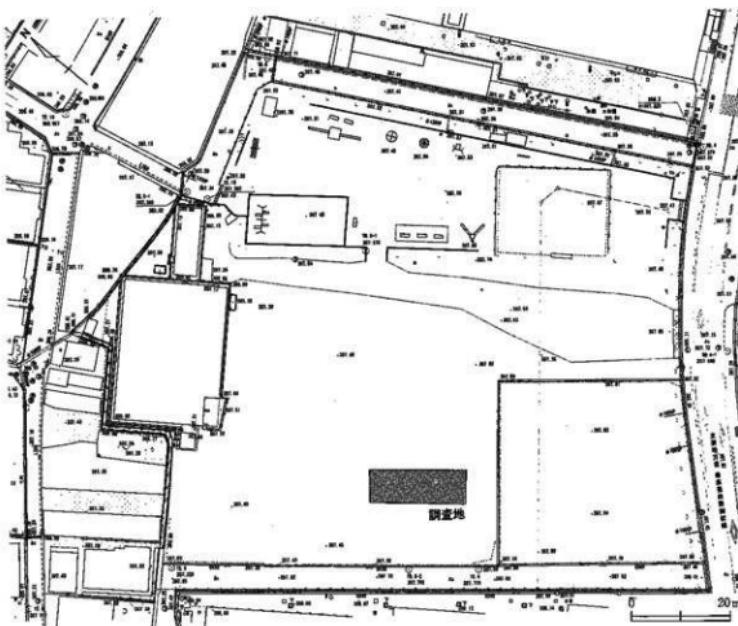


図7 丹切遺跡（9次）調査位置図

### (2) 検出遺構

第2層中に上層遺構面、第3層・第4層間に下層遺構面が認められる（図9）。

#### 上層遺構

擾乱が著しいが、土層断面において南北方向の3条の素掘溝を確認しており、うち2条を完掘している。遺物の出土は認められないが、宇陀高等女学校建設前の水田の一部と推定される。

#### 下層遺構

第3層除去後、東西方向の15条の素掘溝を検出した。黄褐色土の埋土中からは、中世の土師器片が出土したに過ぎない。なお、遺構面からは、近世の陶器片が出土している。

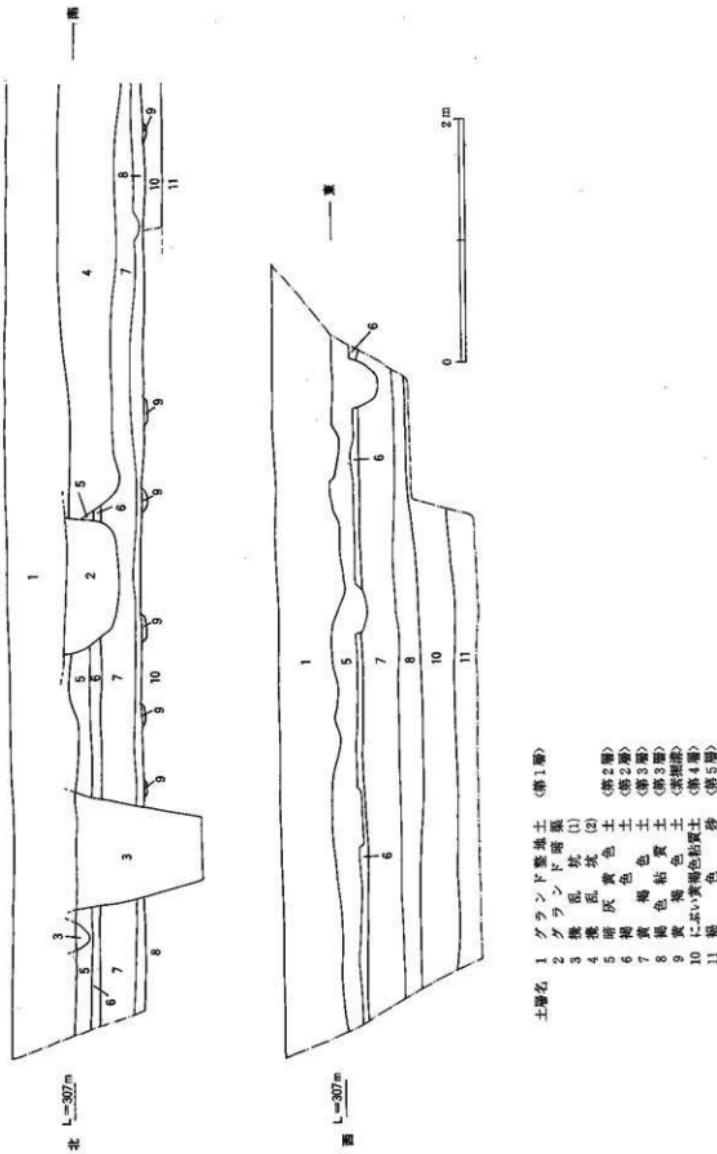
### (3) 出土遺物

各層から遺物が出土しているが、高校建設以後の擾乱坑からの出土が比較的多い。弥生時代以前のサヌカイト剣片、古墳時代の須恵器、中世の土師器・瓦器・陶器・磁器等、近世の陶器・磁器のほか、鉄釘も認められるが、細片で摩滅したものが多く、図化できたものは多くない。

#### サヌカイト剣片（図10）

摩滅及び欠損が認められ、ポジティヴな面の打点が失われている。ネガティヴ面に蝶面を残す。耕土中からの探集である。

図 8 丹切遺跡（9次）土層断面図



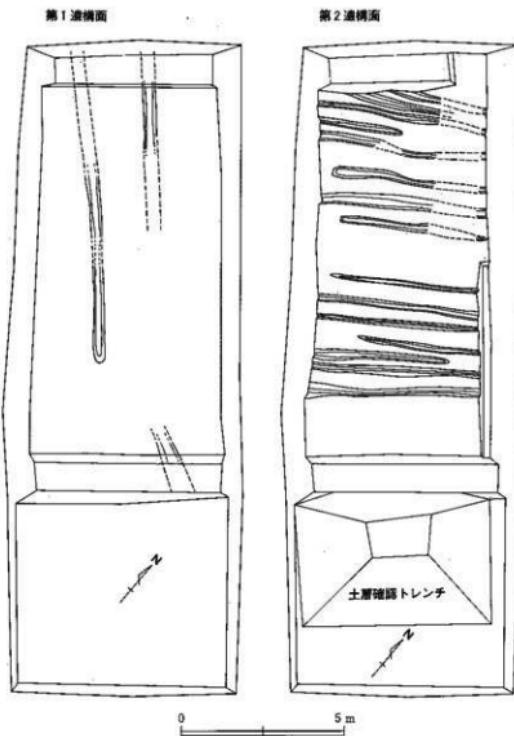


図9 丹切遺跡（9次）造構平面図

### 瓦器椀（図11-1）

口縁端部に沈線を施す。焼成は悪く、灰色を呈する。復元口径11cm、現存高2.2cmである。内外面とも摩滅しており、詳細は明らかにできないが、13紀後葉～14世紀前葉の範疇におさまるものと考えられる。第2層からの出土である。

### 土師皿（図11-2）

内面はヨコナデを施し、外面には指頭圧痕が認められる。口縁は外傾に立ち上がる。復元口径9.4cm、現存高2cmをはかり、にぶい橙色を呈する。第3層からの出土である。16～17世紀の年代のものと考えられる。

### 鉄釘（図12）

1は現存長4.4cm、身部幅 $0.3 \times 0.4$ cmの角釘、2は現存長2.7cm、身部幅 $0.5 \times 0.5$ cmの角釘である。いずれも頭部の形態等は不明である。1が第3層、2が擾乱坑からの出土である。

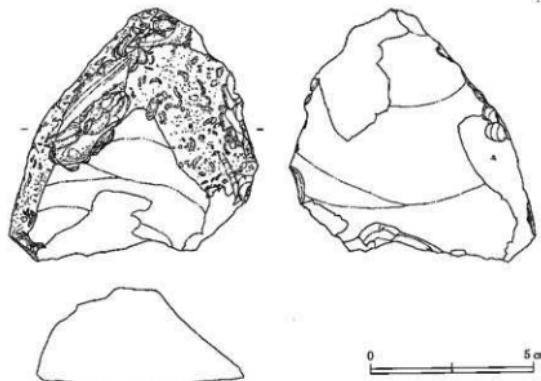


図10 丹切遺跡（9次）出土サスカイト製片実測図

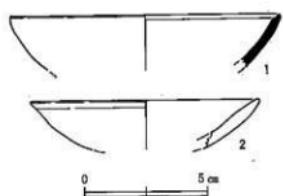


図11 丹切遺跡（9次）出土土器実測図

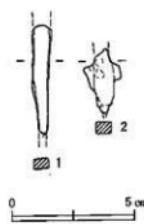


図12 丹切遺跡（9次）出土鉄製品実測図

## 4 ま と め

調査地は、旧宇陀川右岸の低地にあたり、第5層は褐色砂となっている。調査地南端において、現地表から約3.4mまで深く掘り下がったが、その状況には変化がなく、砂礫の堆積のみである。第5層中からは、古墳時代以前の遺物が出土しているが、いずれも著しく摩滅しており、上流域からのものと推定される。

各層の出土遺物から、9次調査地周辺は中世以前においては、宇陀川の氾濫原となっており、土地利用は困難な状況にあったと考えられる。当地周辺の土地利用が可能となるのは、近世以降であり、いわゆる「大川」の水量調整が可能となってからと推定される。この状況は、先に発掘調査を行った1次調査地、5次調査地の様相と同様である。

## 5 抄 錄

|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 遺 跡 名   | 丹切遺跡 <榛原町遺跡地図番号1-98、奈良県遺跡地図番号15-B-8> |
| 調 査 地   | 奈良県宇陀郡榛原町大字下井足17番地の3                 |
| 遺 跡 立 地 | 標高約307~360mの谷部・河岸段丘・低地               |
| 遺 跡 規 模 | 南北約700~800m、東西約300~400m              |
| 種 別     | 縄文時代~中世の遺物散布地・集落跡                    |
| 調 査 主 体 | 榛原町教育委員会                             |
| 調 査 原 因 | 庁舎建設工事(事業者:榛原町<庁舎建設推進室>)             |
| 現地調査期間  | 2000年(平成12)9月1日~同年9月30日              |
| 調 査 面 積 | 140m <sup>2</sup>                    |
| 検 出 遺 構 | 近世の素掘溝(江戸時代の水田跡)                     |
| 検 出 遺 物 | サヌカイト剝片、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鉄釘 (整理箱 1箱) |
| 資料等の保管  | 榛原町教育委員会(文化財整理室)                     |

### 参考文献

- 『丹切遺跡発掘調査概要』 榛原町教育委員会 1986  
『環境文化』第51号 啓環境文化研究所 1981  
『十六面・薬王寺遺跡』 奈良県教育委員会 1988

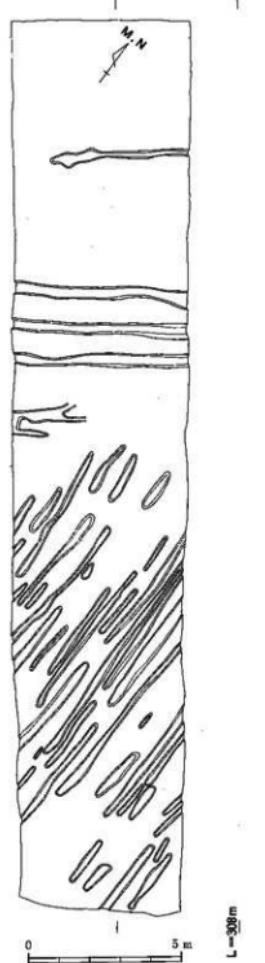


図13 丹切遺跡（1次）素掘溝実測図

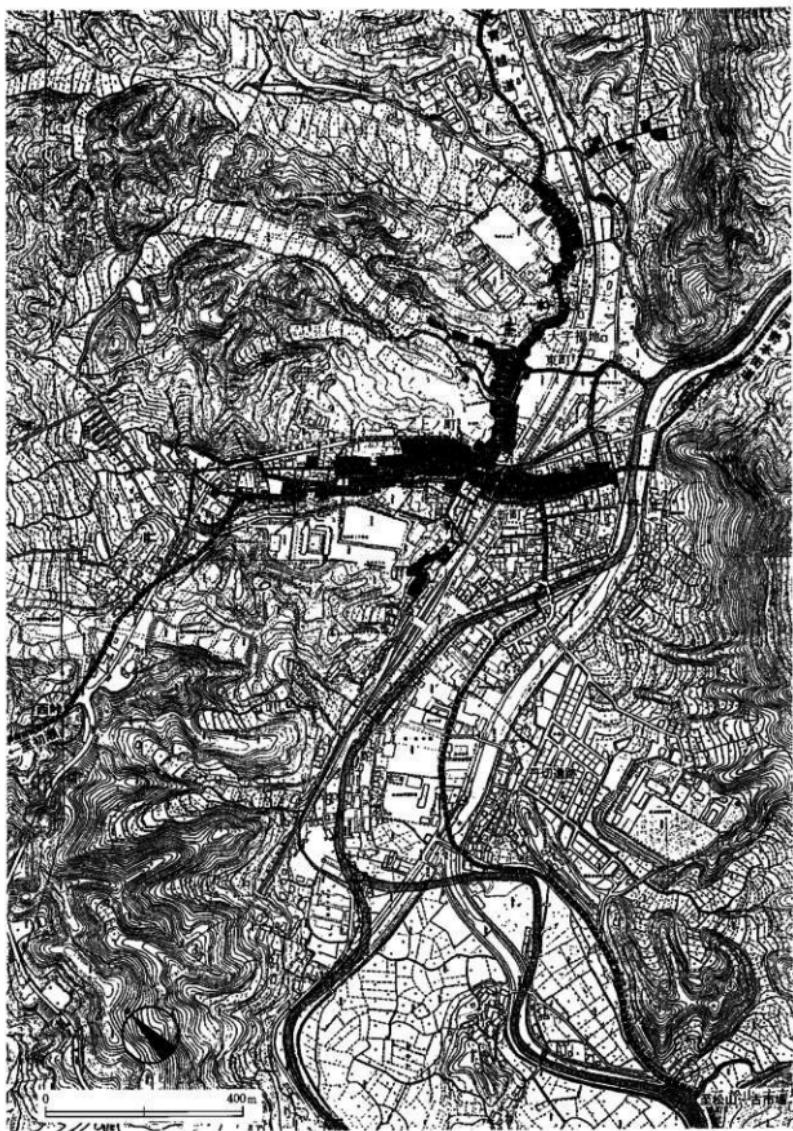
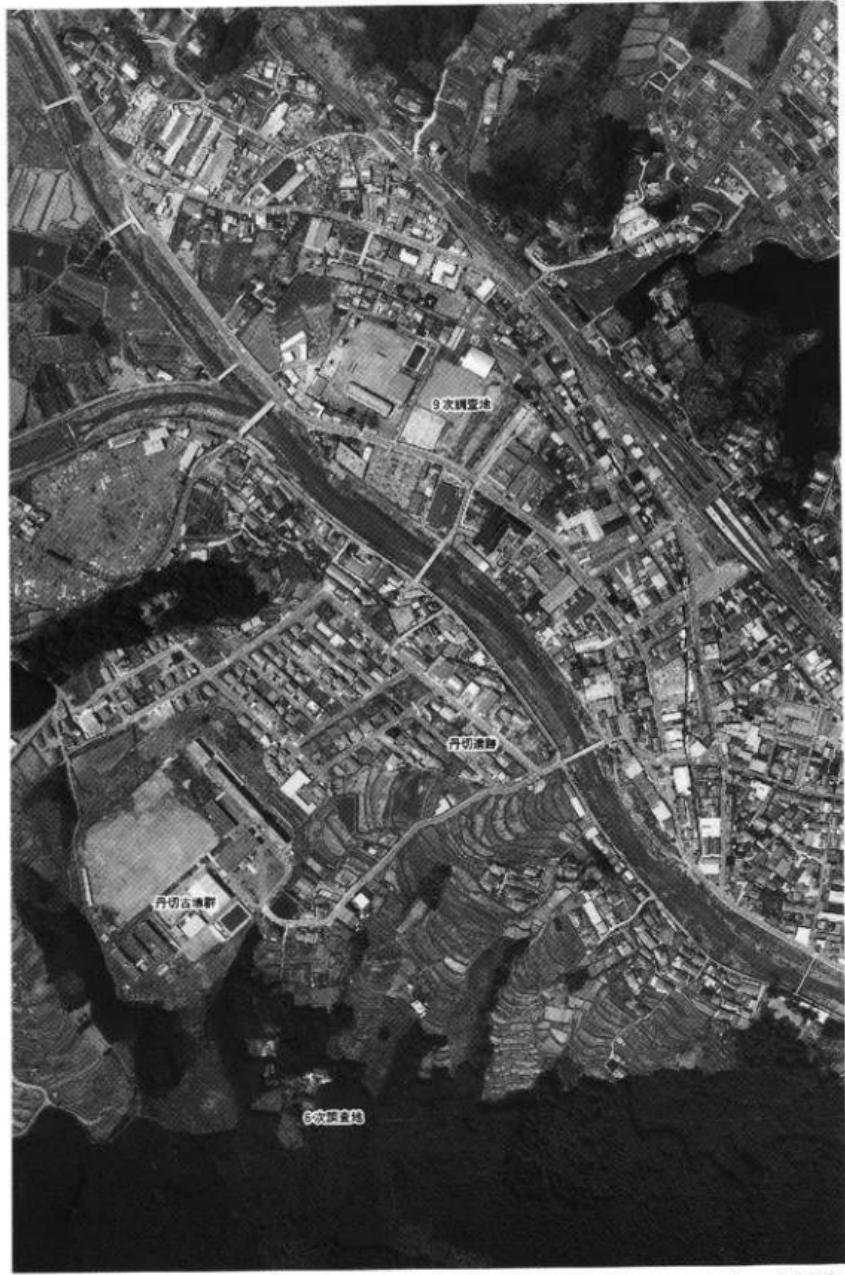


図14 明治時代中期の宇陀川と主要道（「環境文化」第51号）

# 図 版



航空写真（1981年撮影）



航空写真  
(1987年撮影)



9次調査  
航空写真  
(2000年撮影)



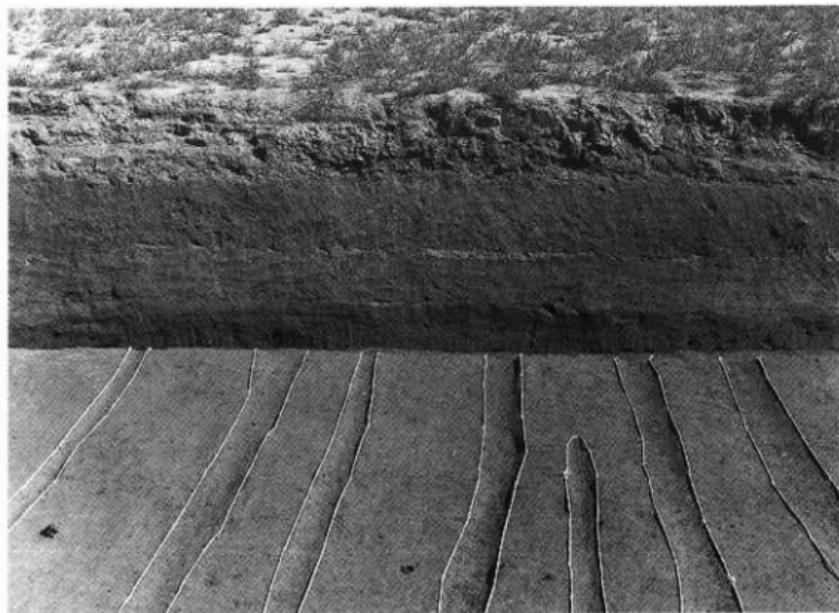
9次調査  
航空写真  
(2000年撮影)



（北から）



（北から）



東壁土層断面（西から）



北壁土層断面（南から）

報告書抄録

| ふりがな          | たんぎりいせき だいろくじ・きゅうじ はっくつちょうさがいようほうこくしょ          |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
|---------------|--|-------|-----------------|-------------------------------------|--------------------|--------------------------|---------------------------|--------------|
| 書名            | 丹切遺跡第6・9次発掘調査概要報告書                             |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 副書名           |  |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 卷次            |  |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| シリーズ名         | 榛原町文化財調査概要                                     |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| シリーズ番号        | 23   |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 編著者名          | 柳澤一宏   |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 編集機関          | 榛原町教育委員会                                       |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 所在地           | 〒633-0292 奈良県宇陀郡榛原町大字萩原164番地 TEL 0745-82-1301代 |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| 発行年月日         | 西暦 2001年3月31日                                  |       |                 |                                     |                    |                          |                           |              |
| ふりがな<br>所取遺跡名 | ふりがな<br>所 在 地                                  | コード   |                 | 北緯                                  | 東経                 | 調査期間                     | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 調査原因         |
|               |  | 市町村   | 遺跡番号            |                                     |                    |                          |                           |              |
| 丹切遺跡<br>(6次)  | 奈良県宇陀郡榛原町<br>大字萩原 元萩原306                       | 29383 |                 | 34度<br>31分<br>16秒                   | 135度<br>57分<br>41秒 | 1995.02.07               | 10                        | 寺院<br>建設工事   |
| 丹切遺跡<br>(9次)  | 奈良県宇陀郡榛原町<br>大字下井足17-3                         | 29383 |                 | 34度<br>31分<br>30秒                   | 135度<br>57分<br>21秒 | 2000.09.01<br>2000.09.30 | 140                       | 役場庁舎<br>建設工事 |
| 所取遺跡名         | 種別   | 主な時代  | 主な遺構            | 主な遺物                                |                    | 特記事項                     |                           |              |
| 丹切遺跡<br>(6次)  | 遺物散布地<br>集落跡                                   | 縄文～中世 | (自然谷地形)         | 須恵器、土師器、製<br>塩土器                    |                    |                          |                           |              |
| 丹切遺跡<br>(9次)  |  |       | 素掘溝<br>(宇陀川氾濫原) | サヌカイト剝片、須<br>恵器、土師器、瓦器、<br>陶器、磁器、鉄釘 |                    |                          |                           |              |

**丹切遺跡第6・9次発掘調査概要報告書**

株原町文化財調査概要 23

2001年 3月31日 発行

編集発行 株 原 町 教 育 委 員 会  
奈良県宇陀郡株原町荻原164番地

印刷 株 式 会 社 ア イ プ リ コ ム  
奈良県磯城郡田原本町千代360-1